

▼ 「自分でわかる症状」

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
アレルギー反応 (インフュージョンリアクション) 	薬剤投与中、投与後に起こることがあります。 発疹、悪寒、発熱、呼吸苦、めまいなどの症状が出現することがあります。 症状が出現時は、ステロイド剤と抗アレルギー剤で対応します。
下痢 	普段の便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛が続く場合や、下痢の回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 水分の制限がない場合はこまめに摂取するよう心がけてください。
吐き気・嘔吐・食欲不振	電解質のバランスが崩れた場合にも出現することがあります。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。
そう痒症・発疹	体がかゆくなることや、発疹が出るがあります。 症状に応じて塗り薬や飲み薬などを使用します。 
疲労感・倦怠感	無理をせず、十分な休息とるようにしてください。 肝機能の低下により症状が出現する事があります。 
神経障害	手足がしびれることがあります。 症状を軽減するために、内服薬等を使用することがあります。
間質性肺炎	空咳、息切れ、発熱など 症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。

▼ 「検査でわかる症状」



定期的検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
1型糖尿病	血糖値が上昇します。 のどが乾く、水を多く飲むなどの症状を自覚することがあります。 急速に進行する場合があります、吐き気や嘔吐が現れた後、1週間前後で意識障害等が現れることもあります。
甲状腺機能障害	甲状腺中毒症、甲状腺機能低下症などに関連した検査値に異常をきたします。 症状として、疲れやすい、体重の変動、いらいらする、脱毛などが現れることがあります。
白血球 赤血球 血小板 腎機能 肝機能 などの項目も問題ないか確認していきます。	

ここに書いてあるもの以外の副作用が現れることもあります。
パンフレット「オブジーボとヤーボイによる併用療法を受けている方へ」もお読みください。
普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。



鹿児島市医師会病院 化学療法委員会
099-254-1125